

# 特別企画

## 対談完全版

「イノベーション発祥の地」という誇りが  
奈良の新時代を切り開く

保険総合研究所  
代表取締役

清岡 義教

マスオグループ  
専務取締役

増尾 朗

*HOKEN SOKEN*  
株式会社保険総合研究所®

特別企画  
対談完全版

「イノベーション発祥の地」  
という誇りが

奈良の新時代を切り開く

増尾朗  
マスオグループ  
専務取締役

清岡義教

代表取締役  
保険総合研究所



**清岡:**増尾さんとじっくりお話するのは初めてですね。私の兄が親しくさせていただいていたので、ご活躍のお噂は色々伺っていました。2013年は奈良青年会議所の理事長も担われて、しかも全国から1万5,000人のJC会員が集まる全国大会が奈良で開催されるという巡り合わせの中、大会を大成功に収められましたよね。今日は、そんな奈良の若きリーダーともいえる増尾さんと色々お話をさせていただけたとあって、楽しみにしてきました。増尾さんといえば、奈良自動車学校というイメージですが、お砂糖も販売されていますよね？

**増尾:**そうなんです。うちは安政元年に砂糖問屋として商いをはじめまして、今年で創業160年を迎えます。私で6代目ですが、祖父の代で自動車学校を、父の代でガソリンスタンドをと事業を拡大してきました。

**清岡:**160年ですか、素晴らしいですね。異業種にも果敢にチャレンジされて、しかもどれもが未だに続いているらしい。

**増尾:**これほど長く続けてこられたのは、うちがしっかりしていたというより、周りの方々にとても恵まれて非常に運が良かったからだと思います。

**清岡:**奈良はとても人付き合いを大切にするまちですからね。ここで生まれ育って本当に良かったと思う大好きな部

分です。でも、それとは別に周りの方々に助けていただけた人徳や先見の明もおありだったんだと思いますよ。

**増尾:**ありがとうございます。私もね、奈良の人の優しさやまじめさが大好きなんですよ。狭いまちですから、自分の商売だけうまくいくべきという考え方では、いつか破綻してしまいますし、お互いうまくいくように助け合う心や目に見えない信頼関係が根付いたんでしょうね。ただ、そのまじめさゆえに、もったいないなと思うところもあるんです。

**清岡:**まじめさが奈良の発展の足かせになってしまっているということでしょうか？

**増尾:**そのとおり！例えば、「奈良らしい魅力を発信しましょう！」と言うと、奈良の人は「それ、面白いからやってみよ



増尾朗（ますお あきら）

安政元年創業の老舗企業株式会社砂糖傳 増尾商店をはじめ、奈良自動車学校やマスオ商事など、幅広い事業を展開するマスオグループの6代目。コロラド大学（アメリカ）を卒業後、一般企業に勤めたのち、家業を引き継ぐ。学生時代に身についた国際感覚を武器に、2013年には奈良青年会議所の第54代理事長としても活躍。若き青年実業家のリーダーとして地元奈良の地域活性に日々尽力している。

# 特別企画 対談完全版

う!」と、とりあえず踏み出してみるのではなく、「長い歴史の中で積み上げられてきたものに恥じないようにするにはどうしたらいいんだ…」と考え込んでしまう。奈良の素晴らしさって、噛めば噛むほど味わい深いというか、裏をかえせば勉強をしてこないと分かりづらいものだつたりするじゃないですか。ぱっと見て、ああ楽しいな、気持ちいいなと思ってもらえるようなものを、もっとインスピレーションで発信してみてもいいのかなと思うんです。

**清岡:**確かに、そうですね。私も東京や大阪で働いた経験がありますが、奈良には独特の「守りの文化」がありますもんね。

**増尾:**でも実は、1300年前の奈良はイノベーションの塊だったんですよ! 当時の若者たちがやる気や気概を持って頑張ったからこそ、こんなに素晴らしい歴史が残る都になってしまったのですから。だからこそ私たちも、過去から受け継いできたものをそのまま守っていればいいということではなく、“日本でもっとも早くイノベーションを起こしたまち”としての誇りを持ち、時代時代の先人たちが少しでも前に進もうとしてきたように、イノベーションを起こして新時代を築き、なおかつ歴史や文化を守ってみたいと思いませんか?

**清岡:**いいですね!“イノベーション発祥の地”なんだと思うと、ワクワクしてきますね。こんなに素晴らしいPR材料があるんだから、殻に閉じこもっていてはもったいないですよね。

**増尾:**新しいことは過去の否定になるという固定観念にし

ばられすぎて、身動きがとれなくなっているんだと思うんです。インフラの整備にしても、便利になったら奈良ではなくなってしまうと多くの人が勘違いしているんですよ。1300年の歴史があるからこそ、そうそう奈良の個性は潰されません。奈良がいくら頑張ったって大阪のようになれないように、他のまちだって奈良にはなれない。

日本にある国宝の仏像128体のうち、奈良には半数以上の72体があるんですよ。2位の京都で37体、3位の和歌山にいたっては5体と、この数字を見るだけでも、奈良って本当に素晴らしい歴史や文化に囲まれていることが分かりますよね。何も恐れることはないんですよ!

**清岡:**私は、経済的な発展もまだまだ十分望めると思っているのですが、増尾さんは、そのあたりをどのようにお考えですか?

**増尾:**これほど伸びしろのあるまちは他にないと思っています。私の思い描く未来の奈良は、観光客で溢れていて、ホスピタリティーの高い人たちが商売を行い、若い世代もたくさん集い、それにともなうインフラも整って、その需要をまかなうために色々な企業が奈良に入ってきて、お金が回り、まちが発展しています。そんな都市としての、グランドデザインを実現するためには、本気で観光に



# 特別企画 対談完全版

取り組み、奈良を発展させたいと望む人が増えるような人材教育に力を入れる、この2点を早急に進めることができますね!

**清岡:**私もそう思いますね。うちの会社は創業以来、奈良にどっぷりだったんですが13年前に大阪に支店を出したんですね。外から奈良を眺めると、奈良は働く魅力が少ないといえばかりに、大阪や京都に出てしまう人の多さが目について。私はもっと大好きな奈良で雇用したいし、育てたいし、うちを巣立った後も色々なところで活躍してもらいたいんです。地元で働きたいと思ってもらうには、奈良を「世界の観光地」としてもっとアピールしたいですね。それこそ英語教育に力を入れて、外国の方に誰が声をかけられても答えられるようにするとか、インフォメーションを整えるとか、今日明日では無理でも、6年後のオリンピックに向けてとかね。奈良の人の温かさや親切な人柄が、そういったところでも発揮されてくると思うんです。ソーシャルネットワークを使えば、お金をかけずにPRすることなんていくらでもできます。奈良の魅力が世界に広がれば、関空からのインフラ整備も必要だし、リニアモーターの議論も活性化されるだろうし、まち全体の発展にも繋がっていくと思います。

**増尾:**観光地としては、ストーリー性も必要ですよね。神話がすたれてしまっているのも問題だと思っているんです。例えば、ハリウッドには、マイケルジャクソンの手形や足型を見るためだけに、人が訪れるじゃないですか。聖徳太子や蘇我馬子がマイケルジャクソン並みのヒーローだったら、みんな奈良に来ますよ。意外と人間の関心は、そんなキャッチャーなものだったりするんです。

**清岡:**確かに、そういう分かりやすい観光目的が奈良を好きになるきっかけになつてもいいですね。

**増尾:**昔、ポールマッカートニーが音楽は螺旋状に深化してきていると言っていたんですね。奈良も“奈良”という個性があるんだから、どんどん新しいことに挑戦しても絶対に明後日の方向に発展することはないだろうと思いますよ。



**清岡:**“奈良に旨いもんなし”も払拭したいですね。

**増尾:**本当に! 今、「まほろば大仏プリン」が



定番のお土産になりつつあるように、グルメも挑戦したらいいと思いますね。まじめすぎないお土産って、買って帰りたいじゃないですか。今開発したものも、何十年後かにはれっきとした名物になるわけですから、もっともっと多方面で盛り立てて行きたいですよね!

**清岡:**いやあ、増尾さんて奈良のことめちゃめちゃ愛しておられますね。イイ男ですね(笑)。“奈良は、イノベーション発祥の地”っていう言葉も、グッと胸にきました。実は私の会社では、理念以外に、毎年のスローガンがあります。奈良1300年祭の時の会社のスローガンが“マインドイノベーション”だったんですよ。気持ちから変えていかないと何も始まらないということを社員に伝えたかったんですが、まさに今日の増尾さんのお話と同じでしたね。“奈良は、イノベーション発祥の地”、さっそく朝礼で使わせていただきます(笑)。

**増尾:**いい男だなんて、ありがとうございます(笑)。私は、清岡さんの発想がやっぱり清岡イズムなんだと感動しました。もしかしたら一番濃いかもしれない。お父さんも大変エネルギーッシュなイノベーションの塊みたいな方でしたし、お兄様も新しいことをどんどんやり遂げる方でしたね。同じ題材の話をしても、私は割と理屈からお話してしまうんですが、清岡さんは目的物に直接手を置くというか、端的にお考えを述べられるというか、お兄さんと一緒に過ごした日々を思い出しましたね。しかも、人に不快感を与えないソフトなあたりで、こんなバランス感覚を持った人も非常に珍しいですよ。保険総合研究所さんも安泰だなと思いました。

**清岡:**増尾さんにそう言っていただけると、本当に嬉しいですね。お互い奈良で働く青年世代として、今後とも色々協力しながら、地元を盛り立てていければいいなと思います。

**増尾:**ぜひ、こちらこそよろしくお願ひします。